

## 大学におけるキーボードリテラシーの必要性

岡田 工

東海大学理系教育センター  
takumi@tokai.ac.jp

立野 貴之

玉川大学リベラルアーツ学部  
tachino@lba.tamagawa.ac.jp

宮川 幹平

東海大学理系教育センター  
miyakawa@tsc.u-tokai.ac.jp

田中 真

東海大学工学部  
tanaka.m@tokai-u.jp

土屋 守正

東海大学理学部  
mitsuchiya@tsc.u-tokai.ac.jp

学生のコンピュータ活用能力は、高等学校において科目「情報」が定着したこと、また、PCが一人に広く普及したことにより、向上していることが当然だと考えも多く広がっている。高等学校の「情報」で基本的な技能を身につけている学生もいるが、スマートフォンでSNSを利用するのみで、ワープロや表計算を利用したレポート作成すら満足にできない学生もいる。彼らは、PCの基本的な操作、とりわけ、キーボード操作が出来ず、ごく単純なことで行き詰っているように思える。

本研究では、情報系科目を履修する大学生に対し、高等学校におけるタッチタイプの経験や独自での学習経験について調査し、彼らのタッチタイプの入力速度を踏まえて分析を行ったので報告する。

### 1. はじめに

GIGA スクール構想の推進により、一人一台の情報端末が配布され、小学校からのコンピュータ教育が活発になっている。NTT ドコモ モバイル社会研究所によると小中学生の学校から配布されるタブレットやパソコンに加え、家庭用として所有する端末を加えると9割の子どもたちがタブレットやパソコンを利用している(図1)。また、高等学校では教科「情報」が定着し、コンピュータの活用能力も高くなっている。しかし、スマートフォンの普及によって、フリック入力に慣れてしまいキーボード入力のできない学生やファイル

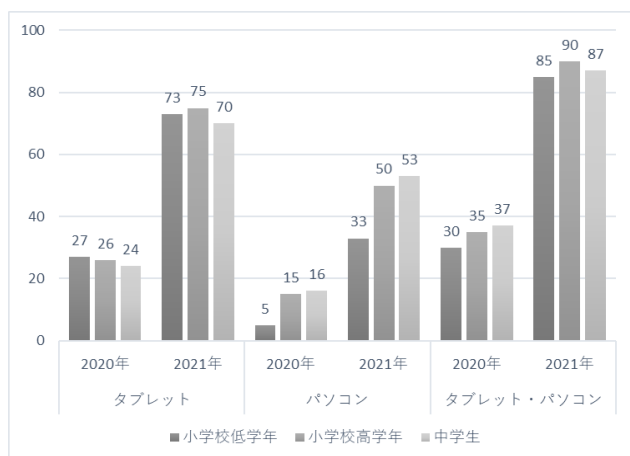


図1 小中学生のタブレット・パソコン利用率(1)

操作などパソコンのファイル操作など基本操作ができない学生が目立つようになってきている。一方、2020年4月から新型コロナウイルスの影響で、多くの企業はテレワークを行うようになり、パソコン需要が高まった。中でもキーボードの販売数は例年の約1.8倍を上回り、現在の業務において、キーボード入力が主流であることが浮き彫りになった。そこで、大学生におけるキーボード入力とこれまでの学習経験について調査した。

### 2. 調査方法と結果

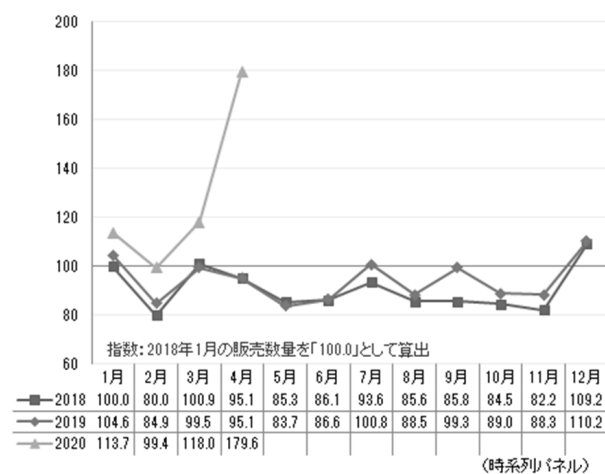


図2 キーボード市場 販売数量指数推移(月次)(2)

表1 タッチタイプに関するアンケート

アンケート結果1	Q1授業でのコンピュータ全般的にの学習経験がある	Q2独学でのコンピュータ全般的にの学習経験がある	Q3普段コンピュータを利用する機会がある	Q4コンピュータ利用に自信がある	Q5コンピュータ利用に興味がある	Q6コンピュータ利用は重要であると感じる
非常にそう思う	7%	2%	22%	6%	16%	55%
そう思う	24%	10%	26%	8%	37%	38%
少しそう思う	38%	26%	32%	19%	36%	6%
そう思わない	25%	29%	16%	37%	9%	1%
全くそう思わない	6%	32%	4%	29%	2%	0%
アンケート結果2	Q7授業でのタッチタイプ練習の経験がある	Q8独自のタッチタイプ練習の経験がある	Q9タッチタイプ操作に関して自信がある	Q10タッチタイプ練習は難しく感じる	Q11タッチタイプ練習は楽しく感じる	Q12タッチタイプ練習は必要性を感じる
非常にそう思う	13%	6%	5%	8%	12%	40%
そう思う	11%	13%	9%	29%	21%	30%
少しそう思う	35%	21%	18%	33%	47%	23%
そう思わない	25%	27%	36%	20%	18%	6%
全くそう思わない	17%	32%	32%	10%	2%	1%

n=135

毎日のようにインターネットを閲覧している学生も、利用する場合はスマートフォンが多く、依然としてタッチタイプに対する苦手意識が高い学生は多く見られる。立野らの知見<sup>3)</sup>、学校での履修は、実際に成績に影響を与えることはなく、学生が自主的にパソコンを使う経験と合わさることによって成績につながるも指摘している。

表1は、松蔭大学の情報系科目を受講する学生(n=135)に対して、入学時の意識アンケート結果である<sup>4)</sup>。ここでは、大学入学時に自信をもってコンピュータを使い、タッチタイプができる学生は、全体の約3割であり、大学教育の初段階での情報リテラシー教育が必要であることがわかった。また、コンピュータは普段から利用しているにもかかわらず、独自でのコンピュータについて学習やタッチタイプを行う比率が低いことから、カリキュラム等への導入が必要ということがわかった。今回、このアンケート結果と60文字を打つ時間について相関を調べた(表2)。

タッチタイプの練習は、入力速度の違いに現れることがわかる。また、独学でタッチタイプの経験がある学生は、授業で学ぶ学生に比べて入力が早いことから、学生の意識によってタッチタイプの差が生じたと考えられる。

### 3.まとめ

高等学校までの「情報」教育によって、タッチタイプを含む基本的な情報リテラシーは、大学入学

表2 Q7とQ8の回答群と60文字の平均入力時間(秒)

	Q7授業でタッチタイプの経験がある	Q8独学でタッチタイプの経験がある
ある	56.5	53.2
ない	76.0	68.9

時に身に着けていると想定していた。しかしながら、毎日のようにインターネットを通じてSNSを閲覧している学生も、ワープロや表計算などの利用に関して、苦手意識が高い学生は多く見られる。タッチタイプについてもITスキルを身に着けた社会人を目指すため、大学における情報教育の検討を重ねていく必要がある。

今回は、全体としての分析結果のみにとどめているが、経験や意識、日常的なPC利用環境などを含めた詳細な分析が、今後の検討課題となる。

### 参考文献

- (1) 「小中学生のタブレット・パソコン利用率約9割 わずか1年で約3倍に」 . <https://www.moba-ken.jp/project/children/>, NTT ドコモ モバイル社会研究所(参照 2022年6月5日)
- (2) 「マウスとキーボードの販売数急増、在宅勤務推奨が後押し」 , [https://www.bcnretail.com/research/detail/20200522\\_174606.html](https://www.bcnretail.com/research/detail/20200522_174606.html) , BCN ランキング, (参照 2022年6月5日)
- (3) 立野貴之,加藤由樹,加藤尚吾:「普段のコンピュータ使用や高等学校での情報教育の経験と大学における情報教育の成績との関係に関する分析」,平成18年度情報教育研究集会講演論文集,(2006),pp.345~348
- (4) 岡田工,立野貴之,宮川幹平,土屋 守正:「学生のキーボード利用意識に関する考察」情報教育研究集会講演論文集,(2021),pp.402-403